「励ましの教育」

学校長　笠　原　究

この春より附属旭川小学校の学校長を拝命しました笠原と申します。私は 20 年近く高校の英語教員として勤めてから，その後 16 年間大学で教えています。その間大学の附属中学でも教えた経験があります。教員として小学生に関わるのは初めてなので，大変楽しみにしておりました。附属小学校の子供たちは，想像していた以上に活発で，利発で，意欲的です。私が休み時間等に学校を回っていますと，たくさんの子供たちが声を掛けてくれます。私が英語教員であることを知って，英語で話し掛けてくれる子供たちもいます。大学では研究室に籠っている時間が長いので，そうしたやり取りを大変嬉しく感じます。

附属小の先生方も非常に聡明で，研究熱心で，子供思いです。授業はよく練られており，子供の創意工夫を引き出す仕掛けが随所に凝らされています。驚かされるのはやはり ICT の活用でしょうか。子供一人一人がデジタル端末を操り，先生からの質問を受け取り，意見をまとめて発表し，それを他の生徒と共有するなどの作業を苦もなくこなしています。私が小学生だったころからは隔世の感があります。

今世紀に入ってから世界ではタブレットコンピュータ，スマートフォン，YouTube，各種 SNS などが登場し，経済及びコミュニケーションの在り方をすっかり変えてしまいました。それに伴い，教育にも不断の変革の波が押し寄せるようになりました。小学校への英語教育の導入，道徳の教科化，GIGA スクール構想，デジタル教科書の登場など，その変化には枚挙にいとまもありません。先生方はこうした変化に対処するために日々奮闘されていますし，子供たちも新たな指導内容に付いていけるよう努力しています。

しかし指導内容が膨らんでも，人間の処理能力は簡単には変わりません。変革の中で，あれもこれも身に付けさせようとしているうちに，段々と教育自体が脅しのようなものになってはいないかと危惧することがあります。変化の激しい世の中に対処できるよう，あれこれと指導するうち，大切な「学ぶ喜び」が失われてしまわないかと心配になるのです。教育は，これを身に付けないと将来大変なことになる，といった脅しであってはいけません。時間をかけて学ぶことは楽しい，だから続けていく，といった態度を育てていかなければならないのです。教育とは「脅し」ではなく「励まし」でなくてはなりません。

幸いにも，この附属小学校には励まし合う子供たちと先生方がいます。「励ましの教育」を実現していることを感じます。先生方と子供たちが学ぶ喜びを共有し，その喜びを通して子供たちが自律した学習者として育っていくことが大切です。保護者の皆様と協力しながら，これからも励ましの教育を続けていきたいと思います。